

1.13 大鹿村中央構造線博物館・なかひら農場の見学（社会分野）

(1) 研究開発の課題（概要）

平成22年度地歴・公民科 SSH 講座の名称で1・2年生希望者対象に大鹿村中央構造線博物館・なかひら農場の見学会を実施した。

(2) 研究開発の経緯

一昨年は第1次産業で SSH 講座を実施した。昨年度は第2次産業で見学場所を選定した。本年度は再び第1次産業で実施した。

(3) 仮説（ねらい、目標）

見学テーマ 西南日本の地形とりんご農家の苦勞

サブテーマ ア 西南日本の内帯と外帯の地形の相違

イ 美濃尾張平野の成り立ち

ウ りんご栽培と天然果汁ジュースの生産

見学を通じて、地震大国・日本の現状とりんご農家の苦勞を理解し、将来の研究・進路選択の一助となればよいと思う。



施設見学 中央構造線博物館



施設見学 なかひら農園りんご園

(4) 研究の方法および内容

ア 対象生徒 1・2年生の希望者 38名 本校教員 3名

イ 実施日程 平成22年10月24日（日）に実施

ウ 実施場所

大鹿村中央構造線博物館 長野県下伊那郡大鹿村大河原988

なかひら農場 長野県下伊那郡松川町大島3251

エ 実施内容

- ・大鹿村中央構造線博物館にて、学芸員による概要説明
- ・博物館施設見学
- ・なかひら農場にて、概要説明とDVD鑑賞
- ・農園・ジュース工場見学
- ・帰路バスにて、アンケート記入

(5) 検証（成果と反省）

ア 事後のアンケートの結果（回答 ①良い ②やや良い ③普通 ④やや悪い ⑤悪い）

- ・日時・日程について ①45% ②26% ③13% ④13% ⑤3%
- ・大鹿村中央構造線博物館について ①22% ②50% ③28%
- ・なかひら農場について ①26% ②42% ③32%
- ・全体についての感想 ①55% ②34% ③11%

イ 生徒の感想から

(7) 中央構造線博物館について

- ・日本列島形成に関わるスケールの大きな話を聞くことができた。自分は地理選択ではないから、学術的な知識はほとんど持ちあわせていないけれどパネルや模型を通じて様々な知識を得ることができた。
- ・濃尾平野の形成要因として、木曾三川の堆積物によるものだという事は知っていたが、実際は活断層の働きによって木曾三川は流れていて、今も地殻は動き続けているという話は驚きだった。自分の住む土地の地下に興味を持つことができた。
- ・模型があって分かりやすい展示だと思う。写真やパネルが多くてよく分かった。構造線境界の岩石標本は本当にはっきり違ってびっくりした。

(4) なかひら農場について

- ・りんごの木は売り物として出すためにはまず10年かかり、一本の木から1000個実るということを聞いてびっくりした。またジュース製造には数々の精密な検査が行われていることに感心した。
- ・長野と言えば果物、長野の果物と言えばりんご。そのりんごを生産している1万坪の農園の真ん中で、大規模なジュースの現地生産が行われていることは、衰退色の濃い日本の農業において価値のある取り組みだと思う。
- ・様々な種類のりんごが消費者のニーズに合わせて作られていることを知った。農場のジュース工場の生産量は多く、利益を上げている。日本の農業は工夫しだいで発展させることができると感じた。

ウ 今後の実施に向けて

(7) 日時・日程について

りんごの収穫時期と本校の土曜講座の実施されない休日を見学日として設定した。帰路降雨が見られたが、見学場所では雨になんとかたたられずにすんで良かった。

(4) 場所について

往復5時間。移動に時間がかかって、見学がゆっくりできなかつた。しかし、普段経験できない現場見学という目標は達成できたと思う。

(4) 見学のテーマ・内容について

生徒にとって理解しやすい内容であった。学芸員の方の懇切丁寧な説明をいただき博物館の概要をおおむね理解できたと思う。さらに我々が居住している濃尾平野の構造をわかりやすく解説していただいた。

なかひら農園では農産物の自由化の波の中での、農家の自助努力を理解できたと思う。

(4) 構内の見学について

普段個人では見学できない場所に行けるのがSSH講座の醍醐味・おもしろさです。来年度もインパクトのある見学先を考えたい。

(4) 全体として

昨年度の反省を受けて、参加者に対して20分程の説明会を実施し、講座参加の動機付けを実施した。来年度も実施して行きたい。



河原で昼食中